

動物

の

診察室

から

○ 31 ○

今年の5月、12歳半のゴールデンレトリバーが、腎臓に腫瘍ができたため、手術を希望して来院しました。

その子の名前は「はじめ君」。しばらく前からおしっこに血が混じるようになって、腎臓の腫瘍が疑われていました。はじめ君のお母さんは、はじめ君が高齢なため、治療についてかなり悩んだそ

## 残りの時間 生活を楽に

### 高齢で悩む手術

うです。はじめ君の寿命を考えると外科的手術をすることに踏み切れなかったのです。しかし数日前、尿道に血餅が詰まっ

ては、腎臓の腫瘍の場合には、腎臓の摘出手術が選択されます。ただ、転移している場合には腎臓だけを摘出しても解決

はしません。検査の結果をお母さんに説明し、年齢的にかなり高齢なこと、腫瘍の転

移の可能性もあること、おしっこに血が混じるが

はじめ君の生活にはそれ

ほど悪化していませんでした。しかし、エコー検査で、左腎臓にはほとんど正常な部分は残っており、脾臓にも一部正常

な部分が見つかりました。腎臓の腫瘍の場合には、外科的な処置はしな

いことにしました。その後、はじめ君は血尿はありますが普通に暮

らしていました。ただ、悪い方の腎臓を摘出した時、その治療で悩む

ことは多くあります。高齢動物の半年、1年は、人の場合の何年分にも当たるからです。残された時間、その子の生活が楽になる方法を選んであげたいと思っています。



抜糸に来たはじめ君。まだまだがんばってね

検査では、やはり脾臓に腫瘍があることがわかりました。ただ、肺や肝臓には転移はありませんでしたので、腎臓と脾臓、両方を摘出した。病理検査では、腎臓は腎臓がん

で取りきれていて、脾臓は血管肉腫でした。血管肉腫もそのままにしておく

と、脾臓にあった異常な部分をみつけて、腎臓の腫瘍と重なって見えていた可能性があら

るということがわかりました。腎臓だけの腫瘍でしたら、悪い方の腎臓を摘出すれば、症状は改善されます。お母さんに前回、脾臓にも腫瘍があるとお話したことを謝って、はじめ君の腎臓摘出手術を行うことにしました。しかし、手術前のCT